

## 表紙解説 「国重要文化財 九重塔」

この塔は、昭和二十九年九月十七日に国の重要文化財に指定された九重塔である。臼杵市野津、王子にある。

小高い森を背に水地地区の水田の中にポツンと立っていたので「水地九重塔」と呼ばれている。

基礎は壇上積式で各面に一個ずつの格狭間が刻まれている。石塔基礎の壇上積式は全国的に見ても古いと言われている。初重の軸部は各面を舟形に彫りくぼめ、中に一躯ずつ蓮華座の上に釈迦・薬師・弥勒・弥陀の坐像を半肉彫してある。

弥陀像の左側に「起立文永大歳二丁卯（二二六七）卯月八日僧定仙敬白」の銘文が陰刻されている。



総高六、一二m。石材は凝灰岩。附近が延万寺跡と伝えられているので、同寺ゆかりの塔で、僧定仙も寺の関係者ではないかと推定される。相輪は後補であるが、大分県を代表する石造美術品である。  
り）（大分県の文化財よ

## 編集後記

会誌第220号をお届けします。

今回は研究3、報告2、資料・古文書紹介5と内容が多彩になりました。

今回、新たに中島子玉著の日本詠史新楽府の連載が始まりました。これはお二人の会員の方の労苦によるものです。中島子玉が頼山陽の「日本詠史楽府」に感銘し、自ら漢詩をつくり纏めたものです。内容が漢詩であり、解釈が大変難しく苦労しているようです。今後の連載にご期待下さい。

原稿を送られてくる方も、新規の方が次第に増え編集担当としてはうれしいかぎりです。私たちの会誌は、会員のどなたでも投稿できるものです。自分の研究、報告随筆等お送り下さい。一回の投稿は25字×20行上下2段、10ページまでとしています。原稿、写真等を一緒に送り頂ければ、編集部にて構成いたします。

今後とも、より多くの会員の方の研究、報告等をお寄せ下さるようお願い申し上げます。あわせて、会誌に対する要望、ご意見、お叱り等もお待ちいたします。よろしく願いたします。

次号221号の原稿メ切は、一月末日です。奮って原稿、ご意見をお寄せ下さい。  
(吉田)